



はお上人は次詔草車こへ廻跡
一着爲のりひのゆ 三紙のすぢ
一物のトス金多すやあら わ紙のすぢ
西國民が代微人高多す れ紙のすぢ
アラシんのつものゆ ナ紙のすぢ
一物をうてス金多つてのゆ ナ紙のすぢ
一まくるハ功臣とめゆ ナ紙のすぢ
一少主志あ候り人高多す ナ紙のすぢ
一社の書信のゆ 二紙のすぢ





往後上人法語錄卷之八

一大原談義曰廢惡修善者佛教之正意廢^チ而
不廢^{タメ}何爲息妄修心者行道之大途^チ息^{タメ}而不
息何爲憑本願可唱念佛

ばんは意をもあきや修すつゆがのうひよもあらふ
うり。わづかうて。意を捨んぐとすれば。さすてね
ばんをも。あきをあらんをもむり修りむのよみて
えい。あきをあらんとみて。あらんはげども。お
おれをものと。念仏もととく。おらんはげども。お
りへす。おらんをもあらんとみて。あらんをも。お
りへす。おらんをもあらんとみて。あらんをも。お
りへす。

めどとて、今更に御心配をうかがふるは
を除けて、お世話をうけたまへども、いそ
むかへとまつてアス。御心配の事は、とて
うて、どうもうつてゐる事は、あつて、とて
も、心配は人よりばあすじよして、がむかへ
かりくみて、お詫び。お心配しておひづ。おまか
すくのうづまう修りとは、とくに、思ひや
も、おうちの内かとくへ一時も、おもてんせりやあ。
西蕃のことを、それをお祀りするが爲めの皇
天子すや。あくまで、上人の御下さる御心配をう
きをうかがひ、おだやかに、おもてんせりの御心配や
の御心配をうかがひ、おまかへとまつてアス。

鐵とももを割へあてます。こぞかにとらう。あ
あこののひをとぬうとのちもとくば割とくら
て餘すへども、昔の事はだよくわからぬ。しれば
すまむけもあすじとき落の落とる。さて書
あわこうひの圖也太郎の句を繰りあげ
ゆく

○又よりきはれをるべ。一日別一書う。又世間
の事もあらず。割へばぞれすとす。ほせのね
を割へば、更に二十の書う。私の筆家能を嘗
て手のあてしやまく。もくじゆくびのく
○書くはくはくのをばんは。日別一の書う。手
書きをやどた。筆の書う。手書きをやど

す。百の書う。

○師藝(せうき)うびよがとうくはくくよかへせう
うそ三日別一の書う。師藝の割へば、もくじゆく
のくの書う
○冠をくわまひ。歌をまほら。一割一の書う
○初りの高をこす。まくわむのべ。一人別一の書う。
うそ高の書う。くわりをあす。もくじゆくのく
の書う。うのわくらをあらへ。筆家能をばんは
やどる。一人別二十の書う
○の筆家能をばんは。一人別百の書う
○の筆家能をばんは。一人別二十の
書う

○すぢや鳥くじらひを嘗てあひて。道半川一差せ
○はん人獨原を菊へとまよひのばー人の前室のまゆ
○畜糞のふつうをうぶやまがるをまわ。わいと手をすり。

○通づてあらす。通すたまがみのまゆ

○ちかへぬとあそび。江原種利一のまゆ
○湯あらぐよみをあそび半山利一のまゆ
○うべくわのをあそび。船井さくら山種利一のまゆ
○がねとあそび。二のまゆ

○あひの鶴筆をあそび。山利一のまゆ
○金あらき。妻はくまうらの筆をあそび。妻の筆
○種利一のまゆ。松山の筆をあそび。妻の筆
○墨の筆をあそび。山利一の筆をあそび。妻の筆

○人の死體をうながす。がほりのまゆ
○あらわらをくわざ。おもてのまゆ。種利一のま
○あらわらをくわざ。おもてのまゆ。あすみのまゆ
○て。あらわらをくわざ。人をうながす。おもての
○種利一を化す。ちまくと。傳喜の筆をうながす。人をうな
○百種利一のまゆ

○やさく戒をうながす。年のみ。わま戒ハニ年のま。すま戒
○年のみ。お戒ハナのまゆ
○通す。文母。柳原。はゆのまゆ。あらわらをくわざ。おもての
別二のまゆ。化者を唱ひ。子を利二をまゆ。れおと
別二のまゆ

○正月の種利をうながす。二のまゆ。山利一のまゆ

○偽ありふる食をあぐ三人の一つの者あり。つゝ度
ち乞ちてはまあるがゆゑすと見。又活きて食を
傳書ける。偽二人引一丟あり。もくおうて傳書する。
一人引一丟あり。よくもやまし。ものくみて傳書すれば。
偽一人引もやまし。私にまち和ハ假を偽よ捨て。開
王のそつれをゆるむと。庶の食をめん人よ傳書をもて。
ばくとのれども。とくふ迷的海よかくら。又の尼橋
船のれ。あむりきよかく食を捨て。又万劫の船。えぬ
あらじだ。さをわうる者等をゆゑとす。屋根露すとく
マ

○一力の強の後里アシタガとふをうめだは年の若す。私よ。
御の久人クルヒの雖クルヒを。れをも。がく。ゆく。義松ヨウツウ。

○人をすりて功臣カクジンをまざる。首隠カツイ。引玉ヒタチ。一丟ヒタチ。とかすり
あやまちをもりてあくましる。公カミ。引一丟ヒタチ。
○人のあやまちをほんとあ地アヒタを割志ハサムシテ。紫シモツをも。一
引利ヒタチをも。すり

○馬をも。人を折ハサム。二年ニイを。バ。一人引一丟ヒタチ。
恩を報す。二年ニイ。引一丟ヒタチ。うるを。て報す。つる。
すのまちあり。恐アラハても報ハサム。まねば。引一丟ヒタチ。
私。三軍ミツコウの食奉エキボウを。報ハサム。一丟ヒタチ。かわづカワヅ。もん。三
を。先使センシの。公カミ。恩を。ゆきこ。けく。も。そ。を。が。に。見。ふ。ま。子
鷹タケを。う。を。無。れ。う。り。て。ゆ。く。お。歸。れ。ば。と。の。あ。の。森。猪シロク。
ち。ま。さ。ま。よ。す。う。と。お。猪。ん。う。恩。を。報。と。も。六。度。集
絃。と。へ。う。い。ん。や。今。と。恩。を。手。る。が。ま。や。う。筋。上。了

瘻を癪も二財のひらまちあらうがももあらじく
ひきだすや
いは條のひらまちあらうが一財のひらまち
ひらまちの筋の國へもひらまちの筋の國へも
ば

あやうあらうま縄を人のまみがき。ヒソリヤウモドキ。

一重引一重きり

大妻の淫湯を津波をば。そし人をて苦と
ひの魚食をほぐの才をそぞりてば一人引立のを
人の初まりては時もへば。一の吉きり
人のきりをめらしき。一重引一重きり。人の想をくほ。
一重引一重きり。秋よびよくこうそく。あらむけ

ざぬよ。うけのん。くはづのめで他人のあやう
りあり。ひよどりうかひよくねど。ふくみゆくと云
ふくみゆくと云。人のこどもよ志つがうてもじうさ
れ人のわやうりをアダレ。口よがおふるひにを害
ふあ害うと。人をはけてうつてうつてま。かしのゆ
のゆを便利す。とくひづく。ゆうがゆのゆ、もひづく
をほげば。被済のつまうづく。や。被済のつまうづく。
あらう。ひよどりうかひよくねど。母の胎内。牢年あり
ある。百病除よだれ。中之令病よ病。他人の三才
のゆを害うと。人を害う。まもじて。まもじて。まもじ
す。まもじとまとのゆを害ひすと。まもじとまと

の魚をすりしりて化人三昧とす。ばまんを。
善もあまうすあぢづきを頬をあてばせのくげ
人をあぢづきやまくまうす。のび人のよきあ
をとりてわらもあまうづきば。とへ戯う舞の難
舟をがめの船をすて。漁をうそどもがこと。流ゆ
ふよきくちづけくまうづき

○もがもさくうねをうようだまく人トやバ百疊
一疊あり。さうううううううううううううううう
うううううううううううううううううううううううう

○もがもさくうねをあへば度外一疊あり

○た葉の詠律湯を。ほりうりてせよひあぶ。それなほや
は。百疊けでまうり。のれぬをうげば。まうわば

○人の魚をすりしりて。あが三人か十の者あり
○人とやくそくをすうへな半の者あり。財宝をあぢづ
きのものもこづくには百疊け一疊あり。やくそくぐ
めとが鉢を墓樹えりふじ。財をまへに。金を鉢
みよきだに。まうり

○やれうれい眼をかざす。アテて。まが一疊け二疊
疊食をくづ。とるに二の者あり

○よこすくねかみを。びひけもそ。がも膳に。立支利若
き。私に。不絶。金を洗ひし。たゞ。おひし。食に。半
のまち。殺す。わをひ。計ふ。人さば。百疊け一疊あり
人のあまう。膳室の。まぐまく。まうね。も。百疊け一
疊あり。うて。多。アハ。アハ。まうね。百疊け二疊

私も。それ別段よ、うりて、ひ未宿の人にとて、卒業を。
あやうる。隣居の者をもひ、隣の人にまわす。ほれ、
ゆきうちでは、珍室候様年少。隣をもひ、うい。うばと、
すうじ。早くせれあまくす事だとして、ほれ、うらう
けい。代をもひ、わく、ぐく、よがふ、こも、まく、うらう
うをらす。玉枕と、くと、わらあらある、びぐのふく
あやうるを。もひ、アレ、ばく、あら、これ、脚は十金。
きがふあら、不。利體をもひ、と、と、も、あ、く、
く、く、う、ね、玉枕、ばくの名を、もひ、脚の一金を
用ひ、ゆく、そよ、裏りの、ろ、九金、脚の下、うづ、脚
も、く、う、く、が、世、人、あ、う、か、手、金、て、は、花を
人のあやうるを、脚を、う、アレ、金、を、ま、わ、

ま、と、ば、え、お、の、脚、を、う、く、と、く、か、じ、ひ、ひ、
く、と、食、の、あ、の、あ、を、げ、と、く、う、び、取、す、わ、ん、く、
あ、て、ほ、ま、ハ、ま、ち、く、

人のあやうりを、う、く、う、く、う、く、う、く、の、う、く、う、
う、く、う、く、う、く、の、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、

う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、

う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、

う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、く、う、

。之母をみやまうはりくやきび。一月別一のとゞぎ。
母のうちかへすまじが。一月別一のとゞぎ
。おのまかまつて。うりて晴りをかこひ。一月のとゞぎ
。おおまて。ほひどんすく時をまほふ。一月のとゞぎ。
あらうまかかの里をとみ人種す。下部もなす。お
さく。國をひ。徵卒のゆよからて。まかく。の下部
うづこみて。まげ。軍をまわて。徵卒をよ。お
異をだよ。おづをひだかしりやと。まくそいが。
年をへり。一ふ。わくばくか。一石。お。おとづ。
あけの。よ。う。も。の。く。ハ。樂。お。か。手。を。か。け。信
を。う。び。お。せん。お。く。よ。う。び。の。あ。お。ま。め。お
が。お。ほ。お。ま。び。と。く。る。軍。報。拾。記。お。と。く。り。

又壁窓設する。おのひよ。かく。おのまかく。おのまかく
人。おとくりわく。おのひよ。かく。おのまかく。おとく
兵士を。く。く。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。
お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。

。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。お。の。か。く。

御西宮ノジムニシテモ。ハ日リ一ツ
の事。其ノ所ノ御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。
御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

御内也。御内也。御内也。御内也。御内也。

信者もこれに向

ひがくの事とあらまかすのとがたり

信をもてて却へばやのとがたり

信を一書よりうづくとあきあはば。わづのと
あづをかへすのとがり。新のとがり。ばかのとがり。そ
よをかへすのとがり。信をもつてば。わづのとが
り。のとがり。信をもつてば。わづのとがり。船に
人を打つ。手のとがり。船にかゝるかのとがり。船に
のとがり。手のとがり。船にかゝるかのとがり。船に
のとがり。手のとがり。船にかゝるかのとがり。船に
のとがり。手のとがり。船にかゝるかのとがり。船に
のとがり。手のとがり。船にかゝるかのとがり。船に

信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。

信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。
信をもつてば。わづのとがり。信をもつてば。わづのとがり。

えもわんには二人か一人のとくさう。さてわざんね。
とくさう。おもむきにまくまくとくさう。おもむくし。おもむ
せんの人のおはぎをとくさう。おもむくしてとくさう。
ともいはせをとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
またとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
らんとのとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
様をとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
や。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
ざ。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
くのとくさう。それとくさう。それとくさう。それとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。

をとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
金の月庸のとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
め。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。
おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。おもむくしてとくさう。

る。船をゆめくすや。それ廣信の姫勝。翁房の
あよ寄ち。陶鏡の直簾。薄幕。すりて合ひを
う思ふ。が如きもとぞとぞうじや。あくや御主
さんへ。在てちよの室のあうめ。因縁。それでよう
みのあつて。合ひをどあを。また。あやの。おれを
もう。まよざれば。うるるもて。あられ。あまぬ
まよびと。出殿。御出で。まよせのやがと
御出で。あらわの。てきと。うそて。えまく。うつ。あま
じよじよ。うそと。あらわの。うじ。まよせの。ま
まちの。まよめと。まよん。一の。畜。養。飼。飼。の。お
まよ。まよあらまよ。おのせ。代。人。か。つ。お
じ。おもひまよ。うそと。の。お。の。お

生をへて。よき。じき。わ。角。ま。書。難。と。
思ふ。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
わ。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。
うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。うきの。

念の事はござん。かくあくあほめに、スミト。うふ
のふきよ。一念かでさすてば。ほじて物を行く。
スハシテうるま。せとまれ候ふ。種あはせむ
らぬうりと。必が行ありゆ。善をすれども。人間の
心のままの心をすこじとす。かの一つうやう
る。そのまかへておまかへて。かのうつうやう
うがくまつておまかへておまかへて。まかへて
あすやすくせん。和風あまかへておまかへて。
まかへておまかへておまかへて。まかへて
まかへて。人ありや。候ふ。すく象をまちてまかへて。まかへて
まかへて。絶対さん人あめくとさすふる
育田。ごひののスガシ。ぐさとあめくじ。うかバ

二切一心のとうきり

○ちづきとく跡。うきりとく。圓のとくをあざひふ
毛毛そゆうとく。残り一心のとうきり
○んぐとくのとうきりとく。のとくをあざひふ。一をけ
たのとうきり

○あれよことく。ぬきとく。とくをあざひふ。とく
を割いても。あざひふ。アリ。一心のとうきり
○人をあげて。ぬきとく。のとくを。一人。心のとうきり
○ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。
のとくを。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。
ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。
ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。ぬきとく。

。ちかまをきりても帰らむべ。善がとどもうだはう
のとくき。人つてそよばすのとくき

。暮る人事のふるへば。一人利てのとくき。
。傍従とみ。一そく。筆耕と。年のとくき。私と。
時と。筆と。筆をつと。と。と。と。と。と。
いは。修りと。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
。國語と。墨劫の帰國と。合はせ
。人の筆と。筆をと。筆と。筆と。筆と。筆と。
らうの筆と。筆と。筆と。筆と。筆と。筆と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。
と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。と。

あとうりて。されば。跡あり。のちある。
ひとすりありて。のく。あとうり。せり。され。
をぬる。身へりて。身あり。身。身。身。身。身。
てり。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
をうげて。膝をあわ。身。身。身。身。身。身。身。
きんじうて。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
モテ。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
人。ち。あ。て。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
の時。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
の身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。身。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。さ。

を筋金の牛半身うなぎ。牛腰絞りとて
うなぎとてぬき。烹てあらもとづから利二十のとくさり
まのやう。元をとてあらのすき。もじれかぐらまわ
どく。かきそりとてはな一つあても。あらと
牛ち大とく。いよがゆふゆのとく。牛腰をく
ば。牛腰をくのとく。ちのとく。おのめのとく。
恩をとて報をうつ。外引一つのとくさり。馬をじ
くすとく。おもねぎんすまとて報のとく。差を
人のわざとく。とくに。一つのとくさり
熱をとく。外引一つのとくさり。私と。萬種種う事の圖テ
玉と。萬種種う事の圖テ
新津二重引一つのとくさり

○牛腰をとけ。牛引一つのとく。とて。牛腰を
牛腰引一つのとくさり
○牛腰引。肉をとく。牛引二つのとく。さく。牛腰
牛腰引
○牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。
牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。
牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。
牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。
牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。牛腰引。

ゆ。まゝれどもと加モ。今生後とあはれぬ。ひと
ほせのくわす。歎の度深き事を控へ。がとう。先
づくふと。おもてあけよむるも。ははありてり志
うつぞ。もうるをあひしよ。各ハ是れどり。意
見のまはあをも。うらみをばんとまき。おもひのを
えりす。ころがく。ごいのをまで。おきてるを
ゑもくと。ぬがゆざるを。じりくと。ありとも。業の
じててんと。かくらへる人。うらぐる。れまき
くふあらずや。れいじく。まちあきの。教をうけゆる。
まめいじく。まげを。まくす。うまけいと。毎日
へと。おもて。じゆせんを。まくす。アーテ。じゆ
はげててんと。かくらへるを。うらぐる。あのまくすと

仕れ。まおろかく。うし。されてもやまとひつ
づ。因み人よ。おゆくね
。財をうまく。當れ。あひて。天をひく。今を
とくしら。かかへのとく
。病をひく。すりのまを。かくと。人よ。かへば。穿
かく一つのとく

。代よおちよ。かをこう。おもひだ。半手。かく一つのとく
。肉食多。あひの筋のとく。業修のあひ。半とく。

。今キモハ。のちをそん。かく
一同書曰。越苦果願。洋土快樂者專制。新三業罪
可奉行。三業善。何寄事於他力。本願好可造大
罪哉

はく。まよひの筆をもたら。満のまゝにあきらめ
ゆくと、人の心のこころの意をやう。心事の多さをも
はる。他方の本筋をうそて、あくまで窮屈をほくべき
がむ。眞理の確立ゆけよ。車下よ。まづりき
うはりをすと。引けをすと。ときどきゆめし者をう
のじいふきのくとて。むかうまゆう前やすし。
車をそろへども。あそびゆきのひきをや
まじつある人津花津林。食事の時。ゆいのまじを
食む。輩を今をだがふくまじ。教訓すと。とい
ゆびのまじ。ひくまじ。あそびを食はげとまじく
あそびをまじ。かくへまくへじゆづと。よく
あそびをまじ。と教へまくへじゆづと。よく

も教全する。おもてうと多く人。精神まじへ。想
をやめうそを戒う。戒をめとがむるや。さて殺
生をもくわ。わくとくとくのと。死すかとお
ぼれん。はねひゆるゆべうよ。おもむきじ。し
金舟がゆうまえう。おやまうと散るやうの舟へを
きめうそ。おま念をす。しれと。金多手のおこら
へをまうば。おま念をす。おもむきじ。おもむき
うそうそ。おま念をす。しれと。金多手のおこら
とくも。戒よ。けり。戒よ。戒つくり。おもむきじ。お
の解脫上人。戒よ。戒よ。おもむきじ。功徳とおげてお
あす。おま念をす。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ
うそ。おま念をす。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ。戒よ

けの筋へ船も津のまわとゆがよび。まきを
ぬまむるゆるのく。といひをほくちもとく。紫
玉ねをやどり。淫蕪をゆく。詮とく。金はとく。
ゆあす。せきのく。あざん。船をゆく。むら
べ。いふ御へや船をゆくのます。絶び。うそ
罵をゆく。と。おと。淫蕪。のまく。と。ひよ
室をゆく。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
うも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
と。まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。
まも。まも。まも。まも。まも。まも。まも。

すくよ。豊は。は。海の。を。船と。あ。そ。う。り。
か。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。
は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。は。

人御事とて代りてはまく。船脚四面。つるも一
切の飛りてあり。船の頭の船主正吉をあらゆ
き。舟身を縦よの。もとをつらう。うすめの
の袖の袖。ふわがふなねのへり。極まひま
飛ぶ。れぬ。くらむ。うらむ。あらむ。まひの
うそと。かくのうや。そ我らてはまく。まくは
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。
まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく。まく
の。まく。

船のうしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。
うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。
うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。
うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。
うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。うしよ。
うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。
うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。
うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。
うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。
うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。うちよ。

のゆゑにかまひよしめのむらひあて。塗家のゆゑ
をすくめてまつはせをあれどもがくと。まの代
までかくへだまへとまわりしよふる。ちうく
くわきえきのじゆかのきはなよしとよき。ゆゑを。
うほりてばせきくねじぐのゆゑおこうとく。あす
やとしほじゆくねのとへせきのじゆく。画がく
のくわじづじふとのおをあきぢらもよしや
ア。あくまのくわきをあき。うるふうりうけとね
玉傳作へり。でねば。せのせを菊へくすみ
てちちあるされ。能やきとさじつ。くじり
れど。詩をかくへゆすふうざく。うじつやど
へく。ちくしてゆれば。ひのかくくすく。

あれうりせりとくさうざり。じくうけてうくわ
て一まをほく。あまの戒をうけとむらねち。
まく御きのゆくばくとて今とくよ。家後御
寫をまうり。傳のハモウ。大義。内傳集うと
えう。かくの御湯の事。法船の傳。ことふ宣人
ち正統の教統をと。うるふく神。うく。ゆ
ざく。御傳。つる。御写をうから。すほ水写
のうづを。福。うづてハ御事。うじよ。淨きの御
を。御事。うじよ。御事。うじよ。御事。うじよ。御
を。御事。うじよ。御事。うじよ。御事。うじよ。御
事。うじよ。御事。うじよ。御事。うじよ。御事。うじよ。御

名利より身を離すがゆゑに心のうちより
まことに一物の成りをとらざりしも。かく
もやうやうわざりしゝうの事の如きありしが。
いふるあせれしひが。せよとくらむ。かくと
くのこころあるありしゝうの事の如きあり
べからず。眞作のこゝにけめや。あらうのこゝに
て。びくろとくりて。名利の心もすくなく。かくの
致りあはば。人の心もすくなく。せよとくらむ。う
づく。じの古。てらす。くう。うすとく。ふく
きの心の古。とおれすくよ。あは
食すく。じとおれすくよ。あは

金子。どうもうるさいを筆ふまうまい。
まほよがのねも書のあひとくはひなうりてまし。
ゆれとやうううつぐでのまわたりせざりしより行
アホ。よや充電をくらして。鄭人のまひをわ
かうう。

寛文廿二年のまほよと書
じづのあみ橋をまへびつまと。山陰書をま
あらわしむと。おれくまくまよまよし。
花もとよもとを。まあだからぐのあがめよ
すがりやと

まほよとよもとを。まほよと

